

# 進んでコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成

～英語による言語活動の充実を目指して～

由利本荘市立鶴舞小学校 教育専門監 佐々木 真智子  
秋田市立金足西小学校 教諭 奈良 璃菜

## 1. はじめに

由利本荘市では、令和元年度から「拠点校・協力校英語授業改善事業」を通して県内大学等と効果的に連携して、外国語活動・外国語（英語）担当教員の指導力及び英語力の向上を図るとともに、モデルとなる実践事例を県内の他校に提供することにより、当該校の成果の普及を図ってきた。令和3年度は、鶴舞小学校と本荘南中学校が拠点校として研究を進めた。

鶴舞小学校では、研究の重点として、次の二つに取り組むこととした。

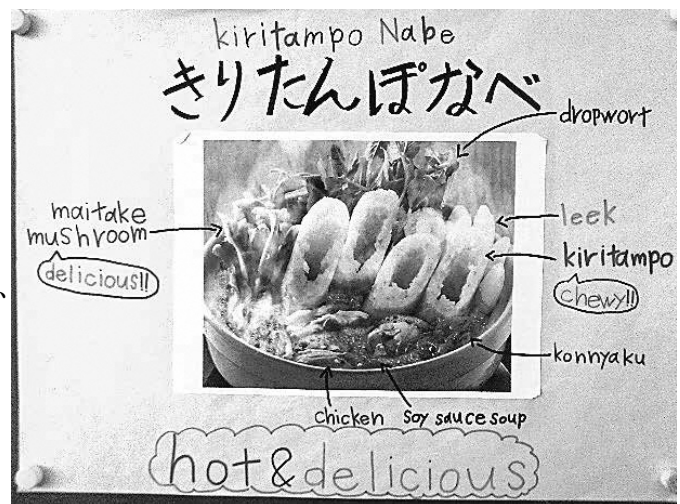
- ① 学びのつながりを考えた単元の構想
- ② 『見方・考え方』を働かせる学び合い

「外国語の面白さや豊かさなどに気付き、進んでコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成」という外国語活動・外国語の研究主題のもと、研究の重点を具体化させて取り組んだ。

## 2. 具体的な取組と工夫

### (1) 「学びのつながりを考えた単元の構想」について

「学びのつながりを考えた単元の構想」を実現するために、二つの側面から研究を進めた。一つ目は、「教科横断的な単元構想」である。学級活動や総合的な学習の時間、各教科など、児童が学習したことを取り入れた単元構想を目指した。6年生では、家庭科「くふうしよう おいしい食事」の単元で、「1食分のこんだて」を考えたり調理の仕方を学んだりした。その学習と関連付け、今回紹介する研究授業では、「由利本荘市に新しく来たALTにおすすめの料理を伝えよう」という学習課題を設定した。



おすすめの料理のポスター

二つ目は、「自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動の設定」である。5年生では、総合的な学習の時間に「地域の伝統や文化について学ぼう」という学習を行った。自分が興味をもって調べた県の名産品を外国語の学習にも取り入れて単元計画を立てた。家庭科で小物作りを行った際には、「家族にプレゼントしたい」という声が児童から多く聞かれたので、外国語でも「家族へのお土産を購入する」という場面設定を行い、児童の実態をもとに、相手意識や目的意識をもって活動に取り組めるよう工夫した。

(2) 「『見方・考え方』を働かせる学び合い」

「『見方・考え方』を働かせる学び合い」では次の三つを具体的取組として研究を進めた。一つ目は「All Englishの授業によるInputの充実」である。授業の導入では、毎時間、本時のゴールが見通せるようなSmall Talkを行った。Small Talkでは、既習の表現をたくさん取り入れたり、児童を巻き込んで行ったりするように心がけた。インプットやインテイクの時間を十分に確保することで、新しい表現にも慣れ親しむことができるようにした。

二つ目は、「学級の実態や単元のねらいに応じた学習形態の工夫」である。ペア、グループ、出店方式など、活動や単元のねらいにあわせた学習形態を柔軟に取り込んだ。鶴舞小学校では、学級担任、ALTに加えて、教育専門監の3人で授業を行うことも多いため、多様な学習形態を工夫し対応することができた。



出店形式による活動の様子

三つ目は、「提示やくり返しによる既習事項の活用」である。英語を話すことに苦手意識をもっている子どもも少なくないため、既習事項については単元を通して振り返る場面を設けたり、これまで学習した単語についてはいつでも思い出すことができるよう教室に掲示したりして、児童が安心して学習を進められるようにした。

これらの取組と工夫の集大成として、公開研究会を行った。以下に、当日の指導案を載せる。

### 3. 本時の指導案（ねらい～学習過程）

(1) ねらい

- ・紹介したい料理について、おすすめの理由を話したり、ALTからの質問に答えたりしながら、その魅力を伝えることができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・紹介したい料理について、おすすめの理由を話したり、ALTからの質問に答えたりしながら、その魅力を伝えようとする。(学びに向かう力、人間性等)

(2) 学習過程

過程 (分)	主な活動と児童の動き	指導者の活動・支援と評価	
		HRT	○ALT ・教育専門監
挨拶 (3)	1 Greeting	○児童と一緒に元気に挨拶する。	○楽しい雰囲気をつくるために、明るく挨拶をする。
導入 (5)	2 Today's goalの確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">おすすめポイントが伝わるように、選んだ料理を紹介しよう。</div>	○HRTのおすすめの一品についてALTとSmall Talkをする。	○HRTとSmall Talkを行う。 ・児童の手本となるように反応しながら聞く。

<p>展開 (31)</p>	<p>3 Activity 1. 練習する。  2. 1回目の紹介をする。 (例) S:Please look at this. Do you know this food? A:No. What's this? S:It's kiritampo nabe. It's a very popular hot pot dish in Akita. A:I see. What's kiritampo? S:This is kiritampo. It's a rice stick. Grilled rice. Do you eat rice? A:Yes, I like rice. S:We have good rice in Akita. You can eat delicious kiritampo. My family likes kiritampo nabe. Soup is delicious. Chicken and vegetables are good combination. A:Great!  3. 2回目の紹介をする。</p>	<p>○自信をもって紹介することができるように、練習する時間を設け、児童と一緒に練習する。  ○後半の活動に生かすことができるように、中間評価で上手なやり取りや困ったことを取り上げる。 ・「スーパーで売っています。」と伝えたい。 ・「味がしみています。」ってなんて言うのかな。</p>	<p>○発音や表現の手本を示す。 ・発音に自信がない児童と一緒に練習をする。 ・会話が続かない児童と一緒に、既習の表現等を使ってやり取りをする。  ○中間評価を受け、会話が弾むコツとして簡単なリアクションや質問の表現を伝える。 ・新しい表現を進んで使うことで、手本となるようにする。</p>
<p><b>【思考・判断・表現】</b> 紹介したい料理について、おすすめの理由を話したり、ALTからの質問に答えたりしながら、その魅力を伝えている。(観察・振り返り) <b>【主体的に学習に取り組む態度】</b> 紹介したい料理について、おすすめの理由を話したり、ALTからの質問に答えたりしながら、その魅力を伝えようとしている。(観察・振り返り)</p>			
<p>振り返り (5)</p>	<p>4 Review of today's class ○「振り返りカード」を書く。</p>	<p>○「おすすめポイントが伝わるように工夫したこと」や、「紹介の仕方のよかったところ」など、振り返りの視点を明確にする。</p>	<p>○児童のがんばりややり取りのよかった点を称揚する。</p>
<p>挨拶 (1)</p>	<p>5 End of Class</p>	<p>○満足感をもって終わられるように、がんばりを称揚する。</p>	

#### 4. 成果と課題

児童の思いを生かした単元構想を工夫し、話したくなる内容や興味のある内容を取り上げたり、学習形態を工夫したりすることで、学習への意欲が高まり、進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の割合が増加した。また、教育専門監による校内研修会を設けたことも効果的な試みであった。クラスで行うSmall Talkの方法などの研修を受け、単元や授業の導入での教師の英語の発話量が増えた。このことも、児童の英語の発話量が増えたことにつながったと考えている。既習の表現に何度も触れたり、児童が英語で言いたい表現を取り上げたりすることで、既習事項を活用しようとする姿も見られるようになった。小3のアンケート結果では、5月に比べてその意識が24%向上した。こうした積み重ねを継続して行っていくことで、一層児童の英語による言語活動は充実していくことが予想される。

課題としては、児童のパフォーマンスをよりよくしていくために中間評価を生かした後半部分の展開を充実させていく手立ての必要性が挙げられる。児童の実態に応じた見取り、ねらいに迫るための効果的な中間評価の在り方の研究を今後も継続していきたい。